

目次

戦後葉たばこ生産政策史 上
政策形成に携わった人々

プロローグ 志と知の再生連鎖を 1

序章 専売制創始期の原料観
第一節 専売制創設と政策スタンス 4
1、葉たばこの農業と「法的独占の接点」 4
2、先師が残した局長の「劇的証言」 5
3、目賀田自主完結の「原野」 7
4、専売制を築いたリーダーシップ 10
5、広島大本営と専売制採用の決断 13
6、仁尾初代官の並ぶ深い寂寥感 16
第二節 首脳陣のフイル 18
1、たばこ史を飾る傑出した逸材 18
2、浜口専売局長の識見と徳望 20
3、歴史が語る偉大な人間像 22
ライオン宰相の遺書『随感録』

第一章 公社移行前の生産振興（一九四五～一九四九）
第一節 第二次大戦直後の混乱（一九四五～一九四九） 25
1、致命傷を越え復興の迷宮 25
2、「オースモーク」 27
3、マッサーが書いた終戦記 30
4、対日管理機構と統治政策の転換 32
5、廃墟からの苦悩と再出発 34
6、虚脱感の一面と後年の奇貨 36
第二節 生産復興と財政専売の機能 39
1、民主主義の助長を図る三大改革 39
2、農地改革の本質をとらえよう 40
3、たばこ作食糧確保の共存 45
4、益金が歳入予算の約二割を 48
5、芦田内閣当時の外資導入政策 50
第三節 日本専売公社への移行 53
1、たばこ民営論の唱え 53
2、専売制の協議会 57
3、マ書簡と専売事業審議会の設置 59
4、増産報償・代替原料・買上価格 60
5、法案起草の労苦と公社化準備 63

第二章 商品生産志向への助走期（一九四五～一九五三）
第一節 葉たばこ事業の政策の主体性 65
1、専売事業の創設 65
2、葉たばこの農業政策を主導する府 67
3、たばこ作農政を巡る攻防の構図 70
4、公社発足の産業史的な投影 77
5、原料生産ビジネスの立体的 81
第二節 葉たばこ国際ビジネスの復活 81
1、たばこ国際ビジネスの復活 81
2、原料ビジネスの概観と需要情報 84
3、生産性の向上と指導援助基盤 87
4、時代を反映する実用技術の断面 90
5、（1）揚床育苗の着想

	(2) ウイルス性病害の防除	
	(3) 土壌消毒法の確立	
	(4) 被覆栽培の実用化と普及	
	(5) 薬培養技術の確立と半数体による新品種の育成	
6、	組合交付金と災害補償のシステム	97
	(1) 耕作団体に対する交付金交付等の制度	
	(2) 偉材が示した知性と人間像の一端	
	(3) たばこ農家に対する災害補償制度	
7、	概算払制度と乾燥施設等の補助金	101
	(1) 生産原価引き下げに資す概算払	
	(2) 乾燥室等の生産施設に対する補助金	
第三節	財界出身総裁の原料視座	104
1、	製糖業界から初代総裁を起用	104
2、	秋山総裁の科学技術観と原価意識	106
3、	企業的発想に立つ原料政策の布石	109
4、	経営革新の選択と自律化志向	112
5、	民間人による国営企業経営の制約	116
第四節	葉たばこ価格形成の自画像	121
1、	収納価格の法的性格と史的意義	121
2、	裏面史を秘めた収納価格の公示	123
	(1) 専売局時代における通例の告示	
	(2) 物価統制令に基づく共同の告示	
	(3) 専売公社による単独公示への復帰	
3、	公社発足当時における生産費論	129
4、	価格形成への需給事情の参酌	133
5、	パリテイから生産費方式への軌跡	136
6、	戦後史を描く基本算式の概観図	140
	戦前の価格算定における生産費方式	
7、	米価算定の感化と収納価格への布石	143
	純粋明快な指導性と政策観の示唆	
8、	産地からの発声と価格審議会の発足	148
	審議会の初試練と産地風土の自負	
第五節	G H Q管理下の政策視座	154
1、	物価統制令の適用と価格の協議	154
2、	低物価堅持を一貫する政策主導	156
	「価格パリテイ方式の仕組み」	
	「パリテイ方式による価格算定」	
3、	生産農家の主体性涵養にも配慮	160
4、	政策形成への整合性と相互検証	163
5、	物価統制の始動と政府内の混迷	165
6、	原料政策面への地殻変動を誘発	168
7、	インフレの終息と管理行政の閉幕	171
8、	統制周辺の印象と資料史の断面	175
	資料(1) 葉たばこの等級改定について	
	資料(2) 昭和二十五年産葉たばこ収納価格の決定について	
	資料(3) 一九五〇年産葉たばこの収買価格について	
	資料(4) 葉たばこ改定価格の説明	
	資料(5) G H Qの価格承認メモランダム	
第六節	外資導入論の波紋と收拾	184
1、	外資導入論を巡る攻防の構図	184
	たばこ民営問題の発端とその周辺	
	外資導入に対する反対意見の要約	
	言論界の外資導入歓迎論と慎重論	
2、	協議会は葉たばこ農業問題に苦慮	187
	池田蔵相が説明した「諮問」の核心	
	小委員会による「各種試案」の作成	
3、	結論的に民営を「時期尚早」と判断	192
	協議会以外の外延的な情勢推移	
	内外に配慮した協議会の答申	
4、	吉田首相の答弁と委員会の周辺	197
	民営論は行政機構の改革とも連動	
	重要発言の割に委員会は紛糾せず	
5、	G H Qたばこ班長の隠れた寄与	201
6、	池田蔵相による民営化の回避策	204
7、	租税四原則の視座と専売制の接点	206
	製品たばこにおける累進課税	
	嗜好品の課税と必需品の課税	
	高度な安定機能と企業性の発揚	

目次上.txt

8、	第九臨時国会の白熱した民営阻止	211
	(1) 臨時専売制度協議会の終盤における審議の進行状況、専売当局の意見、耕作団体の意向など	
	(2) 総理発言に伴う民営論の経緯、協議会の検討概要と答申見通し、「安くてうまいたばこ」の生産可能性など	
	(3) たばこ事業に対する外資導入問題の発端、特にBAT社幹部の感触、技術援助と機械輸入、脱税の防止など	
	(4) 民営化とたばこ耕作の農業問題、「国会たばこの会」のスタンス、専売公社の経営姿勢など	
9、	第十回国会における劇的な決着	227
	(1) 委員会周辺の大詰めムード、与野党同舟の異例な国会質疑、たばこ税制論など	
	(2) 民営論の誘因とニュー・ディール政策の教訓、国会申し合わせの劇的採択など	
10、	良識の府を自任する参議院の論調	236
第七節	原料生産の国民経済的な課題	239
1、	品質主義の提唱と公社体制の確立	239
2、	政策志向に映る上林生産局長の情熱	243
3、	オフィスの奇縁とアダムスの墓地	247
4、	青年議員の協力と再建戦略の自負	251
5、	耕作経営の活性化と商品生産の萌芽	
	第一次大戦後のアメリカ葉たばこの苦境	255
	「他山の石」条件不利な耕作者	
	商品葉たばこと生産者の弱い地位	
	信用貸が呼び込む不幸な隷属性	
	メーカーの優位と競売市場制度	
	参戦に伴うアメリカのたばこ増税策	
	葉たばこ農場価格の特質と読後感	
6、	耕作団体の主体性と率直な期待	263
	耕作界が見せた自主行動と熱気	
7、	各国におけるたばこ関与の構図	270
	政府等のたばこ産業に対する関与	
8、	わが国たばこ産業の国際的な地歩	274
9、	民営問題決着直後の情勢推移	281
	『専売公社はどこへ行く』	
10、	歴史的な審議の舞台 大蔵大臣官邸	285
	渋沢元蔵相と専売事業との宿縁	
	農漁業観の深奥と「知識の宝庫」	
	枢機を巡る秘話と琴線の触れ合い	